

1

解答解説のページへ

n を 2 以上の自然数とする。自然数の組 (a_1, a_2, \dots, a_n) を解とする方程式

$$(*) \quad a_1 + a_2 + \dots + a_n = a_1 \times a_2 \times \dots \times a_n$$

を考えると、以下の各問いに答えよ。

- (1) $n = 3$ のとき、 $(*)$ の解 (a_1, a_2, a_3) のうち、 $a_1 \leq a_2 \leq a_3$ を満たすものをすべて求めよ。
- (2) $n \geq 3$ のとき、 $(*)$ の任意の解 (a_1, a_2, \dots, a_n) において、 $a_i = 1$ となる i が少なくとも 1 つ存在することを示せ。
- (3) $(*)$ のある解 (a_1, a_2, \dots, a_n) において、 $a_i = 1$ となる i がちょうど 2 個存在しているとする。このとき、 n のとり得る値をすべて求めよ。

2

解答解説のページへ

xyz 空間において、点 $A(1, 0, 0)$, $B(0, 1, 0)$, $C(-1, 0, 0)$, $D(0, 0, 1)$ をとり、線分 CD の中点を M とする。さらに、 N を線分 BD 上の点とする。また、 z 軸と平行でない直線上の異なる 2 点 $P(x, y, z)$, $Q(x', y', z')$ に対して、 $\frac{z'-z}{\sqrt{(x'-x)^2+(y'-y)^2}}$ をベクトル \overrightarrow{PQ} の勾配と呼ぶ。 \overrightarrow{AN} の勾配を t_1 , \overrightarrow{NM} の勾配を

t_2 とするとき、以下の各問いに答えよ。

- (1) $t_2 = 0$ となるように N をとったとき、 t_1 の値を求めよ。
- (2) $l = |\overrightarrow{AN}| + |\overrightarrow{NM}|$ とし、 l が最小となるように N をとったとき、 l の値を求めよ。
- (3) $0 \leq t_2 \leq t_1$ となるように N をとったとき、 N の y 座標を s とする。 s がとり得る値の範囲を求めよ。

3

解答解説のページへ

$f(x)$ を連続関数とするとき、次の各問いに答えよ。

(1) 次の等式を示せ。
$$\int_0^{\frac{\pi}{2}} f(\sin 2x) \sin x \, dx = \int_0^{\frac{\pi}{2}} f(\sin 2x) \cos x \, dx$$

(2) 次の等式を示せ。
$$\int_0^{\frac{\pi}{2}} f(\sin 2x)(\sin x + \cos x) \, dx = \int_{-1}^1 f(1-t^2) \, dt$$

(3) 次の定積分の値を求めよ。
$$\int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{\sin x}{1 + \sqrt{\sin 2x}} \, dx$$

1

問題のページへ

自然数 a_1, a_2, \dots, a_n ($n \geq 2$) に対して, $a_1 + a_2 + \dots + a_n = a_1 a_2 \dots a_n \dots \dots (*)$

- (1) $n = 3$ で, $(*)$ は $a_1 + a_2 + a_3 = a_1 a_2 a_3 \dots \dots \textcircled{1}$ となり, $a_1 \leq a_2 \leq a_3$ を満たすとき,

$$a_1 + a_2 + a_3 \leq a_3 + a_3 + a_3 = 3a_3$$

$\textcircled{1}$ から $a_1 a_2 a_3 \leq 3a_3$ となり, $a_3 > 0$ から, $a_1 a_2 \leq 3$ ($a_1 \leq a_2$) である。

- $a_1 a_2 = 1$ のとき $(a_1, a_2) = (1, 1)$ となるが, $\textcircled{1}$ は $2 + a_3 = a_3$ となり不成立。
 - $a_1 a_2 = 2$ のとき $(a_1, a_2) = (1, 2)$ となり, $\textcircled{1}$ は $3 + a_3 = 2a_3$ から $a_3 = 3$ である。
 - $a_1 a_2 = 3$ のとき $(a_1, a_2) = (1, 3)$ となり, $\textcircled{1}$ は $4 + a_3 = 3a_3$ から $a_3 = 2$ である。
- よって, $\textcircled{1}$ かつ $a_1 \leq a_2 \leq a_3$ を満たすのは, $(a_1, a_2, a_3) = (1, 2, 3)$ である。

- (2) $n \geq 3$ のとき, $(*)$ の任意の解 (a_1, a_2, \dots, a_n) において, $a_1 \leq a_2 \leq \dots \leq a_n$ としてよいので, (1) と同様にすると $a_1 + a_2 + \dots + a_n \leq n a_n$ となり,

$$a_1 a_2 \dots a_{n-1} a_n \leq n a_n, \quad a_1 a_2 \dots a_{n-1} \leq n \dots \dots \textcircled{2}$$

ここで, $a_i = 1$ となる i が存在しないと仮定すると, $2 \leq a_1 \leq a_2 \leq \dots \leq a_{n-1}$ から,

$$2^{n-1} \leq a_1 a_2 \dots a_{n-1} \dots \dots \textcircled{3}$$

$\textcircled{2} \textcircled{3}$ より, $2^{n-1} \leq n \dots \dots \textcircled{4}$

さて, $n \geq 3$ のとき, $2^{n-1} = (1+1)^{n-1}$ と考えて, 二項展開すると,

$$2^{n-1} \geq {}_{n-1}C_0 + {}_{n-1}C_1 + {}_{n-1}C_2 = 1 + (n-1) + \frac{1}{2}(n-1)(n-2) > n$$

すると, $n \geq 3$ のとき $\textcircled{4}$ は成立しない。

以上より, $(*)$ を満たす $a_i = 1$ となる i は少なくとも 1 つ存在する。

- (3) $(*)$ のある解 (a_1, a_2, \dots, a_n) に対し, $a_1 \leq a_2 \leq \dots \leq a_n$ とすると, $a_i = 1$ となる i がちょうど 2 個存在するとき, $a_1 = a_2 = 1$ とおくことができ,

$$1 = a_1 = a_2 < a_3 \leq a_4 \leq \dots \leq a_n$$

- (i) $n = 2$ のとき $(*)$ は $a_1 + a_2 = a_1 a_2$ となり, $2 = 1$ から不成立。
(ii) $n = 3$ のとき $(*)$ は $a_1 + a_2 + a_3 = a_1 a_2 a_3$ となり, $2 + a_3 = a_3$ から不成立。
(iii) $n \geq 4$ のとき $(*)$ は $2 + a_3 + a_4 + \dots + a_n = a_3 a_4 \dots a_n \dots \dots \textcircled{5}$

$2 + a_3 + a_4 + \dots + a_n \leq 2 + (n-2)a_n$ から, $a_3 a_4 \dots a_{n-1} a_n \leq 2 + (n-2)a_n$ となり,

$$\{a_3 a_4 \dots a_{n-1} - (n-2)\} a_n \leq 2 \dots \dots \textcircled{6}$$

さて, $2 \leq a_3 \leq a_4 \leq \dots \leq a_{n-1}$ から, $a_3 a_4 \dots a_{n-1} \geq 2^{n-3}$ となり, $n \geq 4$ のとき,

$$2^{n-3} \geq {}_{n-3}C_0 + {}_{n-3}C_1 = 1 + (n-3) = n-2$$

よって, $a_3 a_4 \dots a_{n-1} \geq 2^{n-3} \geq n-2 \dots \dots \textcircled{7}$ となり, $a_n \geq 2$ なので, $\textcircled{6}$ から,

$$0 \leq a_3 a_4 \dots a_{n-1} - (n-2) \leq 1$$

- (iii-i) $a_3 a_4 \dots a_{n-1} - (n-2) = 0$ のとき

$$a_3 a_4 \dots a_{n-1} = n-2 \text{ となり, } \textcircled{7} \text{ から } 2^{n-3} = n-2 \dots \dots \textcircled{8}, \quad a_3 a_4 \dots a_{n-1} = 2^{n-3} \dots \dots \textcircled{9}$$

⑧より $n = 4$, ⑨より $a_3 = \dots = a_{n-1} = 2$

これより, ⑤から $2 + 2 + a_4 = 2a_4$ となり,

$$a_4 = 4$$

すると, $(a_1, a_2, a_3, a_4) = (1, 1, 2, 4)$ において,

(*)は成立している。

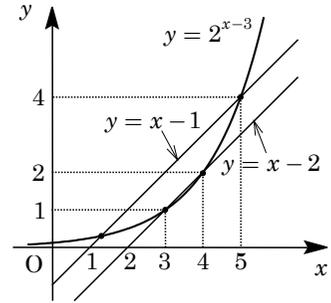
(iii-ii) $a_3 a_4 \dots a_{n-1} - (n-2) = 1$ のとき

⑥から $a_n = 2$ となり, $a_3 = a_4 = \dots = a_{n-1} = 2$

これより, $a_3 a_4 \dots a_{n-1} = n-1$ から $2^{n-3} = n-1$ となり, $n = 5$

すると, $(a_1, a_2, a_3, a_4, a_5) = (1, 1, 2, 2, 2)$ において, (*)は成立している。

(i)~(iii)より, 求める n の値は, $n = 4, 5$ である。



[解説]

和と積が等しくなる不定方程式を題材とした問題で, 医歯大らしく誘導が細かく付いています。(3)はいろいろな記述方法があると思われます。なお, 指数方程式はグラフを用いて処理をしていますが, 丁寧に記述するならば, 数学的帰納法でしょう。

2

問題のページへ

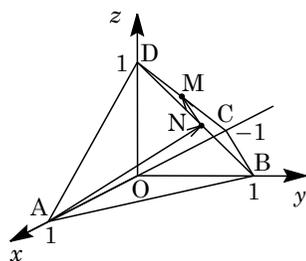
- (1) $A(1, 0, 0)$, $B(0, 1, 0)$, $C(-1, 0, 0)$, $D(0, 0, 1)$
 に対して、線分 CD の中点を M , 線分 BD を $1-s:s$
 ($0 \leq s \leq 1$) に内分する点を N とおくと、

$$M\left(-\frac{1}{2}, 0, \frac{1}{2}\right), N(0, s, 1-s)$$

$$\overrightarrow{AN} = (-1, s, 1-s), \overrightarrow{NM} = \left(-\frac{1}{2}, -s, -\frac{1}{2}+s\right) \text{ の勾配を, それぞれ } t_1, t_2 \text{ とおくと,}$$

$$t_1 = \frac{1-s}{\sqrt{1+s^2}}, t_2 = \frac{-\frac{1}{2}+s}{\sqrt{\frac{1}{4}+s^2}} = \frac{-1+2s}{\sqrt{1+4s^2}} \dots\dots\dots(*)$$

ここで、 $t_2 = 0$ のとき $s = \frac{1}{2}$ となるので、このとき $t_1 = \frac{\frac{1}{2}}{\sqrt{1+\frac{1}{4}}} = \frac{1}{\sqrt{5}}$ である。



- (2) 四面体 $ABCD$ の展開図において、

$$l = |\overrightarrow{AN}| + |\overrightarrow{NM}| \geq |\overrightarrow{AM}|$$

ここで、 $\angle ADC = \frac{\pi}{3} + \frac{\pi}{3} = \frac{2}{3}\pi$ より、 $\triangle ADM$ に余弦

定理を適用すると、

$$\begin{aligned} |\overrightarrow{AM}|^2 &= (\sqrt{2})^2 + \left(\frac{\sqrt{2}}{2}\right)^2 - 2 \cdot \sqrt{2} \cdot \frac{\sqrt{2}}{2} \cos \frac{2}{3}\pi \\ &= 2 + \frac{1}{2} - 2 \cdot \left(-\frac{1}{2}\right) = \frac{7}{2} \end{aligned}$$

これより、 l の最小値は、 $|\overrightarrow{AM}| = \sqrt{\frac{7}{2}} = \frac{\sqrt{14}}{2}$ である。

- (3) $0 \leq t_2 \leq t_1$ のとき、(*)より $0 \leq \frac{-1+2s}{\sqrt{1+4s^2}} \leq \frac{1-s}{\sqrt{1+s^2}}$ となり、

$$0 \leq (-1+2s)\sqrt{1+s^2} \leq (1-s)\sqrt{1+4s^2}$$

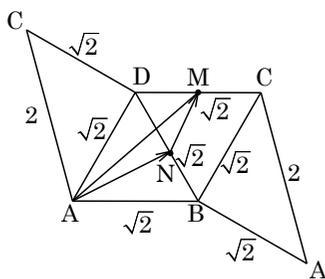
ここで、 $0 \leq s \leq 1$ のとき、左側の不等式から $-1+2s \geq 0$ ($\frac{1}{2} \leq s \leq 1$) のもとで、

右側の不等式の両辺を 2 乗すると、 $(-1+2s)^2(1+s^2) \leq (1-s)^2(1+4s^2)$

$$1-4s+5s^2-4s^3+4s^4 \leq 1-2s+5s^2-8s^3+4s^4$$

まとめると、 $4s^3-2s \leq 0$ となり、 $2s(\sqrt{2}s+1)(\sqrt{2}s-1) \leq 0$

すると、 $\frac{1}{2} \leq s \leq 1$ から、 s のとり得る値の範囲は、 $\frac{1}{2} \leq s \leq \frac{1}{\sqrt{2}}$ である。



[解説]

空間図形の問題です。ただ、誘導とはほとんど無縁な小問構成になっています。

3

問題のページへ

(1) $u = \frac{\pi}{2} - x$ とおくと $du = -dx$ となり, $x = 0 \rightarrow \frac{\pi}{2}$ のとき $u = \frac{\pi}{2} \rightarrow 0$ から,

$$\begin{aligned} \int_0^{\frac{\pi}{2}} f(\sin 2x) \sin x dx &= \int_{\frac{\pi}{2}}^0 f(\sin(\pi - 2u)) \sin\left(\frac{\pi}{2} - u\right) (-du) \\ &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} f(\sin 2u) \cos u du = \int_0^{\frac{\pi}{2}} f(\sin 2x) \cos x dx \cdots \cdots \textcircled{1} \end{aligned}$$

(2) $t = \sin x - \cos x$ とおくと $dt = (\cos x + \sin x) dx$ となり, $t = \sqrt{2} \sin\left(x - \frac{\pi}{4}\right)$ と変形すると, $x = 0 \rightarrow \frac{\pi}{2}$ のとき $t = -1 \rightarrow 1$ である。

また, $t^2 = 1 - 2\sin x \cos x = 1 - \sin 2x$ から, $\sin 2x = 1 - t^2$ となるので,

$$\int_0^{\frac{\pi}{2}} f(\sin 2x)(\sin x + \cos x) dx = \int_{-1}^1 f(1 - t^2) dt \cdots \cdots \textcircled{2}$$

(3) $I = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{\sin x}{1 + \sqrt{\sin 2x}} dx$ とする。ここで, $f(x) = \frac{1}{1 + \sqrt{x}}$ とおくと, $f(x)$ は連続関数であり, $I = \int_0^{\frac{\pi}{2}} f(\sin 2x) \sin x dx$ と表せる。

すると, ①から $I = \int_0^{\frac{\pi}{2}} f(\sin 2x) \cos x dx$ となり, $I + I$ を考え②を利用すると,

$$2I = \int_0^{\frac{\pi}{2}} f(\sin 2x)(\sin x + \cos x) dx = \int_{-1}^1 f(1 - t^2) dt = \int_{-1}^1 \frac{1}{1 + \sqrt{1 - t^2}} dt$$

ここで, $f(1 - t^2)$ は t についての偶関数なので, $2I = 2 \int_0^1 \frac{1}{1 + \sqrt{1 - t^2}} dt$ となる。

さらに, $t = \sin \theta \left(-\frac{\pi}{2} \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}\right)$ とおくと $dt = (\cos \theta) d\theta$ となり, $t = 0 \rightarrow 1$ のとき $\theta = 0 \rightarrow \frac{\pi}{2}$ から, $I = \int_0^1 \frac{1}{1 + \sqrt{1 - t^2}} dt$ は,

$$\begin{aligned} I &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{\cos \theta}{1 + \sqrt{1 - \sin^2 \theta}} d\theta = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{\cos \theta}{1 + \cos \theta} d\theta = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \left(1 - \frac{1}{1 + \cos \theta}\right) d\theta \\ &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} \left(1 - \frac{1}{2 \cos^2 \frac{\theta}{2}}\right) d\theta = \left[\theta - \tan \frac{\theta}{2}\right]_0^{\frac{\pi}{2}} = \frac{\pi}{2} - 1 \end{aligned}$$

[解説]

定積分の計算問題です。(2)の置換を見つければポイントです。